

本部委員会の審議内容

第7回 利用促進委員会 (R5.1.18)

令和4年度第7回利用促進委員会は、新型コロナウイルス感染症防止対策に万全を期すため、今回も開催場所を通運会館に変更して開催し、アンケート調査の中間報告と次年度調査テーマ選定について意見交換を行った。今回はアンケート調査の中間報告の概要(一部抜粋)を紹介する。

1. 調査結果の概要

(1)短・中距離の鉄道コンテナ輸送の利用状況やニーズ等
荷主企業における短・中距離の鉄道コンテナ輸送の利用状況は、表1に示すとおりである。

表1 荷主企業における短・中距離の鉄道コンテナ輸送の利用状況

短・中距離の鉄道コンテナ輸送の利用状況	件数、割合	利用している区間、利用したい区間
ア. 定期的に利用している	59件(45.7%)	北海道→北海道(2件)、北海道→東北(1件)、東北→東北(3件)、東北→関東(4件)、東北→中部(1件)、関東→関東(1件)、関東→中部(1件)、中部→関東(5件)、中部→中部(9件)、中部→近畿(2件)、中部→中国(1件)、中部→四国(1件)、近畿→関東(3件)、近畿→中国(2件)、近畿→九州(2件)、中国→関東(1件)、中国→中部(2件)、中国→近畿(2件)、中国→四国(2件)、中国→九州(2件)、四国→関東(1件)、四国→中部(1件)、四国→近畿(2件)、九州→近畿(1件)、九州→中国(1件)、九州→九州(1件)
イ. 定期的ではないが、スポット利用している	19件(14.7%)	北海道→北海道(2件)、北海道→東北(1件)、東北→関東(1件)、東北→中部(1件)、中部→関東(1件)、中部→中部(1件)、中部→近畿(1件)、中国→近畿(1件)、中国→四国(1件)、九州→中国(1件)
ウ. これまで利用したことはないが、条件等が合えば利用してみたい	6件(4.7%)	北海道→北海道(1件)、東北→東北(1件)、中部→東北(1件)、中部→関東(1件)、中部→近畿(1件)、中部→中国(1件)、四国→中部(1件)、九州→九州(1件)
エ. 以前は利用していたが、現在は利用していない	8件(6.2%)	
オ. これまで利用したことはなく、今後も利用しないと思う	29件(22.5%)	
カ. その他	2件(1.6%)	
キ. 分からない	5件(3.9%)	
無回答	2件(1.6%)	
合計	129件(100.0%)	

注)複数回答

「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した事業所における利用をやめた理由については、「トレーラの単価とコンテナの単価が乖離している」「コストが合わない、リードタイムが長い」「リードタイム、荷送先への到着時間指定ができない」などが挙げられている。

「これまで利用したことはなく、今後も利用しないと思う」と回答した事業所における利用しない理由については、「出荷先が本州のため」「近距離の大口販売先がないため」「短・中距離輸送において自ら輸送手配する状況がない」といった理由のほか、「トラックの利便性の方が高い」「リードタイムがトラックより長い」「トラックに比べて到着時間が遅く、競りに

間に合わない。また運賃が割高になる」「短・中距離輸送の場合、他モードより運賃が高くなる」「輸送枠を確保できない」など短・中距離輸送における鉄道コンテナの利便性を問題視する意見も散見された。

また、意見や要望としては、「リードタイムが長い。リードタイムを短縮して、より短い距離でも運行できないかを検討したい」「原則として道内輸送は割引がなく、割高な料金である。当社では、地方駅から札幌・本州向けの輸送がメインであるため、止むを得ない面もあるが、札幌から地方駅向けのダイヤが使いづらく、リードタイムも長くなる傾向にある」「コンテナ輸送のトータル運賃が貸切トラックよりも安くなれば検討できる」「トラックの利便性に対抗するために、積替場所の拡充を希望する」「運休や輸送障害が発生した際の代替方法がない」「ターミナルでの荷扱い傷が非常に多い。返送する時間や再仕立直しをする手間を極力省いていくことが必要」「31ftコンテナを増やして欲しい」「山陽地方の悪天候に対する設備強化」「従来トラック輸送のエリアに対応できる運行について相談したい」などが挙げられている。

次に物流事業者について見ると、表2に示すとおりである。

表2 物流事業者における短・中距離の鉄道コンテナ輸送の利用状況

短・中距離の鉄道コンテナ輸送の利用状況	件数、割合	利用している区間、利用したい区間
ア. 定期的に利用している	15件(46.9%)	北海道→北海道(2件)、関東→東北(5件)、関東→中部(1件)、関東→近畿(1件)、中部→関東(2件)、中部→中部(2件)、近畿→中国(2件)、中国→中部(1件)
イ. 定期的ではないが、スポット利用している	7件(21.9%)	北海道→北海道(1件)、関東→東北(1件)、関東→近畿(1件)、中部→近畿(1件)
ウ. これまで利用したことはないが、条件等が合えば利用してみたい	3件(9.4%)	関東→東北(1件)、関東→中部(1件)、関東→近畿(1件)
エ. 以前は利用していたが、現在は利用していない	1件(3.1%)	
オ. これまで利用したことはなく、今後も利用しないと思う	4件(12.5%)	
カ. その他	1件(3.1%)	
キ. 分からない	2件(6.3%)	
無回答	2件(6.3%)	
合計	32件(100.0%)	

注)複数回答

「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した事業所における利用をやめた理由については、「トラック輸送と比較して運賃が高い」が挙げられている。

「これまで利用したことはなく、今後も利用しないと思う」と回答した事業所における利用しない理由については、「短距離輸送の貨物がほとんどのため鉄道の利用が少ない」「(関東発)九州着の貨物しか扱っていない」「セメントのバラ輸送のため不可能」など自社の輸送の特性によるもののほか、「リードタイムが長い、天候に弱い」との意見も聞かれた。

第7回 輸送品質向上委員会 (R5.1.20)

令和4年度第7回輸送品質向上委員会は、場所を通運会館に変更し開催された。

協会本部の活動状況報告に続き、JR貨物より、2022年12月ならびに第3～四半期の輸送概況、2023年3月に予定されているダイヤ改正についての報告がされた。

その後、年間テーマとサブテーマ、来年度のテーマ選定についての審議がされた。

1. 令和4(2022)年度調査・研究の状況

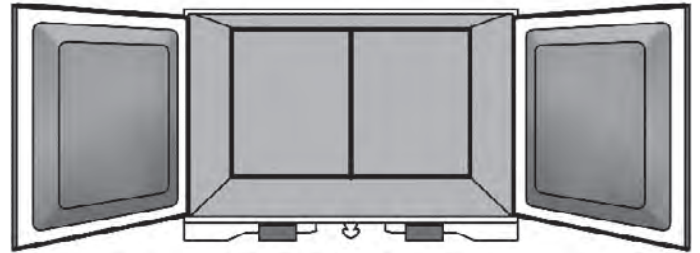
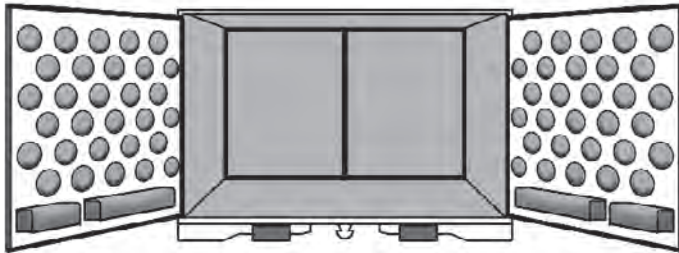
A. 年間テーマ

「養生機能を施したコンテナの開発・検証」

2022年11月22日(火)に吹田貨物ターミナル駅、12月6日(火)に越谷貨物ターミナル駅で開催したコンテナ展示会(本誌2月号P4掲載)についての報告がされた。

参加者の皆さまには、実際に操作していただき、機能や構造、操作性などについて以下のような意見を頂戴した。

- ・仕切り板が思った以上に軽く動かせた
- ・仕切り板の固定が簡単にできて良い
- ・仕切り板の強度に不安を感じる
- ・仕切り板と貨物との擦れが心配
- ・仕切り板の固定・解放を行うラッシング装置が貨物に支障しない工夫が必要
- ・ティルト側の仕切り構造を早く設置して欲しい
- ・ティルト側の仕切り構造は必要ないのではないかと
- ・床面のレールに異物が入るのが気になる
- ・レールのどこからでもラッシングベルトが掛けられるのは良い



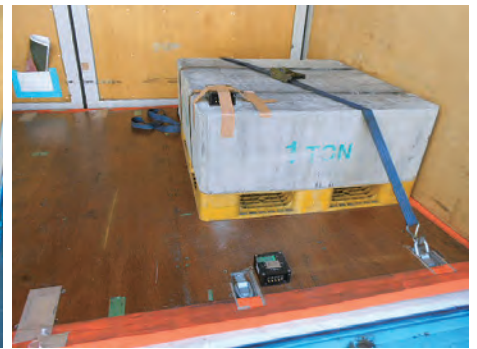
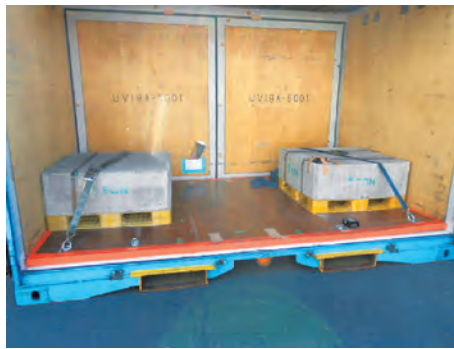
B. サブテーマ

「防振装置搭載鉄道コンテナの実用化に向けた検証調査Ⅲ」

本年度4回目(最終)となる試験輸送を実施したことが報告された。

当初、予定していたお客様の試験輸送がキャンセルとなってしまったため、1トンのダミーウエイトを2個積載して実施した。

このダミーウエイトを使用した試験輸送は、以前、東京～札幌間で実施したことがあるため、今回は、輸送区間を東京～福岡間とした。データ分析を行い、今回の委員会で結果を報告する。



2. 令和5(2023)年度のテーマ選定

各委員から集約された意見をもとに、次年度のテーマについて事務局より報告・提案がされ、審議が行われた。

A. 年間テーマ

養生機能を施したコンテナについては、次年度も引き続き取り組んでいく。

B. サブテーマ

委員の皆さまからの意見をもとに、コンテナ内の環境についての検証を提案する。

テーマ(案)は、「鉄道コンテナ輸送中で製品に影響を及ぼす温湿度の把握」としたい。

- 1年間同一ルートで計測する
- 計測期間は次の4期間とし、それぞれ1か月間計測する

・実際に貨物を積載して輸送し、問題点を明らかにしていくべき

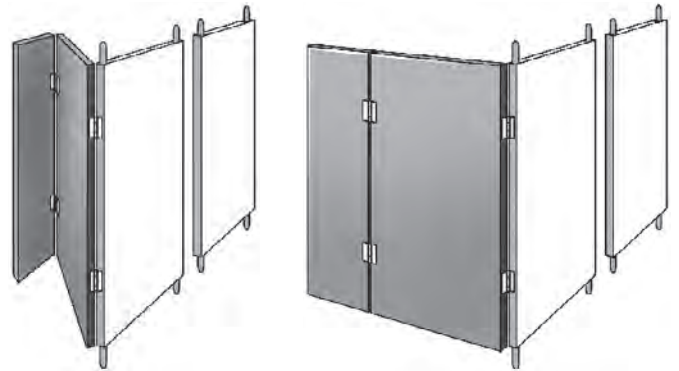
皆さまからいただいた意見・アイデアを、今後の開発に役立てていくこととする。

ティルト側の養生構造については、不要であるとの意見もあったが、貨物事故の多くがティルト時に発生しているとの声も聞かれるので、設置することで検討する。

現時点で二通りの構造を考えており、ひとつは、現行の妻側(進行方向)への養生構造と同様の仕切り板を、現在の仕切り板に増設する方法である。もうひとつは、コンテナの扉の強度を強化し、扉の内面に養生材等を取り付ける方法である。

どちらが良いか、委員の皆さまの意見を後日、集約していくこととする。

<ティルト方向への養生構造案>



- ・安定期(4～5月頃)
- ・湿潤期(梅雨時期)
- ・高温期(8～9月頃)
- ・低温期(12～1月頃)

- 対象とするコンテナは、汎用・通風・保冷の3種とする
- 対象コンテナの所在と、その地域の天候を照合し、コンテナ内外の状況を検証する
- 計測された温度・湿度から、製品や養生材への影響について考察する

この事務局からの提案に対する審議が行われ、次回、両テーマの企画書案が提出されることとなった。